第１号様式　別紙１　　（令和 7 年度計画分　事業活動環境計画書）

氏名 （法人にあっては名称）	カワダ株式会社
住所	広島県広島市南区堀越2-8-11
計画期間	令和 7 年 4 月 1 日 ～ 令和 10 年 3 月 31 日
基準年度(*1)	令和 4 年度 ～ 令和 6 年度 （平均）

１　事業者の要件（⑴、⑵については、特定年度(*2)における市内に設置された全ての事業所の合計量）

該当する事業者の要件	☑ ⑴原油換算エネルギー使用量(*3)が1,500キロリットル以上（特定事業者） ☑ ⑵エネルギー起源二酸化炭素を除く物質ごとの温室効果ガス排出量(*4)が3,000トン以上（特定事業者） ☐ ⑶特定事業者以外の事業者

２　事業の概要

事業者の業種	自動車部分品・付属品製造業 （主たる事業の日本標準産業分類における細分類番号： 3113 ）
事業の概要	1952年設立、広島市内に本社、府中工場、瀬野川工場を置き、自動車部品製造、精密熱間鍛造を事業としている。

３　温室効果ガスの排出の抑制等に関する推進体制

温室効果ガスの排出抑制に当たっては、省エネ法のエネルギー管理統括者を総括者とします。
推進はISO事務局と連携しCO2排出抑制に努めます。

４　温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置及び目標等

⑴　温室効果ガス排出量の抑制に関する目標

項　　目	基準年度の実績 a	計画期間の目標 b	削減量の対基準年度比
	令和4～令和6年度 （平均値）	令和7～令和9年度 （平均値）	((a-b)/a)×100 (aは基準年度の実排出量)
温室効果ガス実排出量(*5)	17,404　$t\text{-}CO_2$	17,230　$t\text{-}CO_2$	1.0　%
温室効果ガスみなし排出量(*6)		17,230　$t\text{-}CO_2$	1.0　%
目標設定の考え方	令和元年～令和3年度実績は目標をクリアした。 コンプレッサー電力量削減、高効率機器を導入しCO2削減を目指します。		

*1　基準年度とは、温室効果ｶﾞｽの抑制度合を比較する基準の年度であり、原則として特定年度(*2)とする。なお、基準年度の温室効果ガス実排出量(*5)については、事業活動の著しい変動等により特定年度が基準年度として適当でないときは、事業者の判断により、特定年度を含む連続した過去３か年度の平均値とすることができる。

*2　特定年度とは、計画期間となるべき期間の最初の年度の前年度をいう。

*3　原油換算ｴﾈﾙｷﾞｰ使用量とは、燃料の量並びに他人から供給された熱及び電気の量をそれぞれ発熱量に換算した後、原油の数量に換算した量の合算をいう。

*4　温室効果ｶﾞｽ排出量とは、二酸化炭素（ｴﾈﾙｷﾞｰ起源のもの及び非ｴﾈﾙｷﾞｰ起源のもの）、ﾒﾀﾝ、一酸化二窒素、ﾊｲﾄﾞﾛﾌﾙｵﾛｶｰﾎﾞﾝ、ﾊﾟｰﾌﾙｵﾛｶｰﾎﾞﾝ及び六ふっ化硫黄）の排出量を二酸化炭素の数量に換算したものをいう。

*5　温室効果ｶﾞｽ実排出量とは、上記(*4)のうちｴﾈﾙｷﾞｰ起源二酸化炭素の排出量と、それ以外の物質ごとの温室効果ｶﾞｽ排出量が特定事業者単位で3,000ﾄﾝ以上のものの排出量の合算をいう。

*6　温室効果ｶﾞｽみなし排出量とは、上記(*5)に対して環境価値(*8)に相当する温室効果ガスの削減量等を調整したものをいう。なお、環境価値が活用されないときの温室効果ｶﾞｽみなし排出量は、温室効果ｶﾞｽ実排出量と等しくなる。

⑵　事業分類ごとの原単位(*7)の抑制に関する目標　（※任意記載）

事業分類	基準年度の実績 a 令和4～令和6年度 （平均値）	計画期間の目標 b 令和7～令和9年度 （平均値）	削減量の対基準年度比 ((a-b)/a)×100
自動車部分品・付属品製造業	10.75	10.43	3.0　%
			%
			%
原単位の指標及び目標設定の考え方	総売上を指標とする。 年間1%の原単位削減を目指します。		

⑶　温室効果ｶﾞｽ実排出量の抑制に関する措置の内容

ｺﾝﾌﾟﾚｯｻｰ各職場必要ｴｱ量調査及び、運転台数の最適化による電力削減、特高受変電所10MVA変圧器更新、高効率機器への更新を中心として排出量を抑制する。

ｺﾝﾌﾟﾚｯｻｰ台数制御導入による低稼働時の運転効率の改善 27t削減見込み
ｺﾝﾌﾟﾚｯｻｰ各職場必要ｴｱ量調査、運転台数最適化による電力削減 15t削減見込み
11MVAﾄﾗﾝｽ更新（負荷率低減）28t削減見込み
井戸ﾎﾟﾝﾌﾟ2台稼働　→　1台稼働（旧・新）95t削減見込み
天井排気ﾌｧﾝ稼働見直し、ｲﾝﾊﾞｰﾀ化による電力削減(15台) 146t削減見込み
排水処理ﾌﾞﾛｱｰ間欠運転　56t削減見込み

⑷　温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する措置の内容（環境価値(*8)の活用等）

⑸　温室効果ガスの排出の抑制等に関する基本方針

カワダ株式会社は、環境にやさしいものづくりに努め、
「人」・「社会」と調和したクリーンな事業活動を目指します。

５　その他の取組

・カーボンニュートラルへの取組
・環境会議（1回/月）を実施
・環境関連の法規制や同意する協定等の遵守
・省資源
・廃棄物排出量の削減
・オンサイトPPAの検討

*7　原単位とは、温室効果ｶﾞｽ排出量を生産量、延べ床面積等の当該排出量と密接な関係を持つ値で除したものをいう。
*8　環境価値とは、ｵﾌｾｯﾄｸﾚｼﾞｯﾄ制度等により、温室効果ｶﾞｽの排出削減等を行うﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄを通じて生成される温室効果ｶﾞｽの削減量等をいう。なお、温室効果ｶﾞｽみなし排出量(*6)の調整対象となる環境価値は市内分とし、市長が認めるものに限る。

第１号様式　別紙３　　（令和 7 年度計画分　事業活動環境計画書）

大規模事業所ごとの温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置及び目標等

（※大規模事業所を設置していない事業者は提出不要）

事業所の名称	カワダ株式会社　瀬野川工場
事業所の所在地	広島県広島市安芸区中野東3丁目8番54号
事業所の業種	自動車部分品・付属品製造業
事業所の概要	1964年新設、自動車部品製造、精密熱間鍛造を事業としている

１　温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置及び目標等

⑴　温室効果ガス排出量の抑制に関する目標

項　　目	基準年度の実績 a	計画期間の目標 b	削減量の対基準年度比
	令和4～令和6年度 （平均値）	令和7～令和9年度 （平均値）	((a-b)/a)×100 （aは基準年度の実排出量）
温室効果ガス 実排出量	17,059　t-CO_2	16,888　t-CO_2	1.0　%
温室効果ガス みなし排出量		16,888　t-CO_2	1.0　%
目標設定の考え方	年間1%の原単位削減を目指します。		

⑵　温室効果ガス実排出量の抑制に関する措置の内容

空気圧縮機をインバータ式に更新、照明装置の高効率機器の更新を中心として排出量を抑制する。
冷却水ﾎﾟﾝﾌﾟ15kw廃止　→　井戸ﾎﾟﾝﾌﾟへ変更 63t削減見込み
IH返送ﾎﾟﾝﾌﾟ6.25kw（5.5kw・0.75kw）直接返送　29t削減見込み
110KVﾄﾗﾝｽ更新（負荷率低減）28t削減見込み
天井照明更新　ﾒﾀﾊﾗ360W　→　LED　116灯　16t削減見込み
外灯　水銀灯　7灯　400W　→　LED　6t削減見込み
井戸ﾎﾟﾝﾌﾟ2台稼働　→　1台稼働（旧・新）95t削減見込み
天井排気ﾌｧﾝ稼働見直し、ｲﾝﾊﾞｰﾀ化による電力削減(15台）146t削減見込み
ｺﾝﾌﾟﾚｯｻｰ土日稼働の見直し　自動制御→単独制御　92t削減見込み
100Kｺﾝﾌﾟﾚｯｻｰ2台　ｲﾝﾊﾞｰﾀ仕様に更新　196t削減見込み
排水処理ﾌﾞﾛｱｰ間欠運転　56t削減見込み

⑶　温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する措置の内容（環境価値の活用等）

２　その他の取組

・カーボンニュートラルへの取組
・環境会議（1回/月）を実施
・環境関連の法規制や同意する協定等の遵守
・省資源
・廃棄物排出量の削減
・オンサイトPPAの検討